学校法人 大阪音楽大学広報誌

Nuss

vol.212
2010 May
発行／学校法人 大阪音楽大学
編集／広報誌編集室
〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL／06-6334-2131 FAX／06-6334-2141
URL http://daion.ac.jp
発行日／2010年5月27日

フレッシュマンキャンプで触れ合いを楽しむ新入学生たち（2010年4月5日　神戸市の六甲山YMCAで）

2015年 楽 創立100周年

CONTENTS

エクステンション・センターにキャリア相談室開設 ……3
フレッシュマンキャンプ／Tuttiオペラ　ほか ……10・11

■大阪音楽大学・短期大学部入学式……2
■交換留学体験記　髙崎真央さん……4
■連載「校史点描」<13>……5
■大阪音楽大学の催し……6
■オペラハウスの催し……7
■オペラ「恋人たちの学校」の見どころ……8
■本学卒業生中心にオーケストラ結成……9
■オペラ物知り講座……12
■オペラ物知り講座 in ひこね……13
■ミュージカル俳優　澤一孝さん……14
■音楽博物館に「ブラームスの遺髪」……15
■入試ナビ／はびきの市民大学聴講記⑩……16
■タローシンガーズが千原作品を世界初演……17
■Approach to Chopin　池田洋子客員教授……18
■幸楽会新会長に松尾昌美名誉教授……19
■オペ管大忙し「オーケストラの日」……20

心を大きく幅広い出会いを

中村学長式辞　４５３人が入学

薄墨色の空に桜が淡く溶け入る4月1日、大阪音楽大学と短期大学部の10年度入学式が、ザ・カレッジ・オペラハウスで行われました。入学生は短大が音楽科１７１人、専攻科25人、大学が音楽学部１７１人、3年次編入38人、音楽専攻科35人、大学院13人の計４５３人。

式は華々しいファンファーレで始まり、中村孝義学長が「村上龍は『音楽家の幸福』というエッセイで、坂本龍一が〝プレイ（遊び→演奏）〟の感覚で作曲する、とうらやんでいます。これは音楽の持つ稀有の特権。みなさんも心を大きく開いて幅広い出会いの経験を目指し、素晴らしい音楽人になってください」と式辞を述べました。新入生を歓迎して在学生オーケストラが、E・エルガーの行進曲「威風堂々」を演奏。式の後、管楽器専攻（クラリネット）の新入生は「大学ではオーケストラに入ってがんばりたい」、ピアノ専攻の新入生は「ソロだけでなく、伴奏や室内楽をやりたい」と抱負を語ってくれました。

あいにくの雨の中、校門をくぐる新入生ら

桂直久名誉教授に瑞宝中綬章

音楽教育・オペラ演出に尽力

大阪音楽大学の桂直久名誉教授が平成22年度（２０１０年度）春の生存者叙勲で瑞宝中綬章を受章、5月11日に東京・国立劇場で伝達式がありました。約42年の長い間、西洋哲学、オペラ演習、演劇論の教育研究活動に力を尽くし、音楽家、音楽教育の育成に情熱を傾けた功績が認められました。95年には夫人の斗伎子名誉教授も勲三等瑞宝章を受けており、本学関係者の夫婦受章は3組目です。

桂名誉教授は69年に教授になり、96年に退職するまで教務部長、演奏部長、水川記念館主事などを歴任。57年（昭和32年）、付設の児童音楽学園（現付属音楽院）では発足当初から児童を対象にソルフェージュ・音感教育を行い、早期児童教育に力を注ぎました。また、58年に教育の拡充を計り、4年制大学の設置認可を申請する際には、事務機構の整備、諸規程の作成、カリキュラム編成など大学の礎となる部分の実務に尽力。

夫婦受章３組目に

水川記念館主事の時は「開かれた大学」として公開講座を催したり楽器博物館の一般公開を行ったり、研究機関の充実に力を入れ、61年ごろから故朝比奈隆名誉教授とともに授業にオペラを取り入れました。オペラ演出活動では関西歌劇団演出部に入団以来、手掛けたオペラ演出は「フィガロの結婚」など約４００回。大分県では68年の第1回旗揚げ公演からオペラ演出を担当。07年に大分合同新聞文化賞（特別功労賞）を受けています。

桂名誉教授は「特攻隊の生き残りで、平和の尊さを実感、音楽と結びつきました。平和でなければ音楽は出来ません。音楽は平和の象徴ということで、生涯この道を歩んでこられたことを幸せだと思っています」と喜んでいました。

付属音楽幼稚園 入園式に109人

お母さんらの歌で新入園児を歓迎

付属音楽幼稚園の第43回入園式が、4月5日に園内ホールで行われました。今年の入園児は年少組99人、年中組9人、年長組1人の計１０９人。

小畑有子園長が「みなさん、幼稚園はおもしろいことがたくさんありますから、先生やお友だちといっぱいごあいさつして、みんなで元気にあそびましょう」と呼びかけました。また、お母さんコーラスと卒園児らが「どんぐりころころ」などを歌い新入園児を歓迎しました。

出入り自由　キャリア相談室

エクステンション・センターに開設

エクステンション・センターでは卒業後の進路支援を行っていますが、4月から新たに「キャリア相談室」を開設。「入りやすく利用しやすい相談室」をモットーに、学生のみなさんが自由に出入りできるスペースを広げ、事務所のレイアウトを一新しました。

「キャリア相談室」には、進路に関する個別相談を受け付けるカウンター、就職情報を検索するパソコン、音楽業界や一般企業、楽団など業種別にファイルした求人票、就職関連図書、進学やコンクール・オーディション情報など、閲覧しやすいようジャンル別にゆったり配置した書棚、デスクとチェアを備え、履歴書作成や資料閲覧など自由に活用できる学生スペース、プライバシーに配慮しパーテーションで仕切った個別面談用のブースを設置しました。壁面には最新の求人票を貼り出しています。今後は広くなったスペースを利用したミニ講座も計画中です。

キャリア相談室の全景

個人面談用ブース

「キャリア相談室」をよく利用するというフルート専攻の学生は、「一般常識や面接対策の本など、書店で買わずにこちらの資料を借りて勉強できたので助かりました。卒業後は地元で、音楽を勉強する時間を確保しつつ働ける就職先を探していたのですが、こちらの企業情報を活用し、現在二次面接まで進んでいるところです」と話していました。

「キャリア相談室」には専門のスタッフが常駐し、学生のみなさん一人ひとりの希望に沿った、卒業後の進路について親身に対応しています。また「音楽教室ｈｏｗｔｏセミナー」や教員採用試験の筆記試験対策講座など、就職に役立つさまざまな説明会や講座を企画しています。「就職活動を何から始めればよいかわからない」「卒業後の自分の姿が想像できない」など、どんな些細な相談でもかまいません。ぜひ新しくなった「キャリア相談室」にお立ち寄りください。

在学しながら留学できます

提携校助成金一部改正

大阪音楽大学奨学制度の海外提携校留学助成金を新年度から一部改正しました。旧制度だと留学するためには休学しなければなりませんでしたが、新制度では在学しながら留学できるようになりました。

留学期間中に提携校で履修した単位のうち、本学教授会が「適当」と認めたものについては本学の授業科目で履修したものとみなすことになりました。また、提携校への授業料は本学に納めた授業料を充てます。

新制度では休学することなくそのまま本学を進級、または卒業することが可能となります。ただし、留学前後、留学中の学修を通じて進級要件を満たす必要があります。

政策企画本部を設置

6月1日から事務機構改組

学校法人大阪音楽大学は、6月1日から事務機構を一部改組します。これまで事務局に企画・学務・入試・エクステンション・研究・管理の6つの事務部門が並立していましたが、このうち企画事務部門を政策企画本部と改め、各事務部門の上位に置きます。これは、学校法人が近年の状況に適切に対応し、さまざまな課題に対して主体的かつ機動的な体制にするために改組したものです。

政策企画本部は、従来企画事務部門が行っていた法人業務、広報、自己点検・評価、国際交流に加えて、新たに大学の将来像を見据え、社会状況の変化に対応した教学、経営のあり方を判断し、学生募集活動、組織の活性化、教育内容の充実など、具体的な政策を立案する政策企画業務などを行います。

また今回の改組で、エクステンション事務部門から、演奏会やオペラハウスに関する業務を分離し、演奏事務部門として独立させました。A号館2階の研究事務部門の窓口名称を教育研究支援センターとし、既存の「FD推進室」に加え、「GP企画室」「連携支援室」を設置しました。

ドイツのワイマール・フランツ・リスト音楽大学で約半年間、本学初の交換留学生として勉学に励んでいた髙崎真央さん（大2・ヴァイオリン）が3月15日に帰国。広報誌編集室に「芸術を学ぶ者として最高の環境だった」と留学体験記を寄せてくれましたので、紹介します。

本学初の交換留学体験記　髙崎真央

ドイツのワイマール・フランツ・リスト音楽大学に半年間

帰国直前、本学で学んでいたマルティン・フリードリッヒ・カーゲルさんと一緒に

ドイツの中心に位置するワイマール。あまり日本にはなじみのない田舎町ですが、ゲーテやシラー、バッハ、リストなど多くの文化人が住んでいたことで有名です。そんな、芸術を学ぶ者としては最高の環境の中で、私は半年間の留学生活を送りました。

初めのうちは、住民登録や保険の加入、銀行口座の開設に携帯電話の購入、インターネットの接続にビザ取得等々、すべきことが山ほどある上に全てドイツ語での対応を余儀なくされ、本当にやっていけるのかと頭を悩ますほど大変でした。トラブルの対処法すら分からず、先の見えない不安や恐怖心とともに過ごした初めの三カ月。勉強していったとはいえ、やはり語学の重要性、現地の言葉の大切さを痛感しました。最初の一カ月は毎日、語学学校に通い、慣れない中で大学生活が始まりました。

「自然体で弾く」滞在中の課題

私は実技レッスンの他に室内楽を三グループ持っていたので、1コマ90分のレッスンを合計週四回と、さらに室内楽の合わせもこなしながら語学学校にも行き、学校が始まってからの私の生活はとても充実していました。室内楽の合わせでは、思ったことを躊躇せずに全て言いきる迫力と、歯に衣着せぬ物言いに最初はついていけず、たじたじでしたが、だんだんと慣れていき、メンバーとは喧嘩をするほど仲がいい、という関係になりました。

半年住んだことで、10月には玉ねぎ祭りが開催されて屋台が並び、12月にはクリスマスマーケットが始まり、ホットワインを飲みながらお喋り。1月頃は気温が毎日氷点下15度であたり一面が銀世界…という、街が移り変わる様子を見ることが出来ました。明るい時間がとても少なく、日が差すことのないどんよりした、寒くて暗い真冬。そのような中で生活していると太陽や光を待ちわびるような、春への強い憧れを持ちます。Schumannが希望に満ちた春に想いを馳せて、交響曲の一番を完成させたことも深く理解できます。

文化や芸術というのは、人々が暮らしていく上で生まれてきたものなので、本場の空気に触れて、生活の様子や息遣いを実際に体験することは、西洋文化を勉強する上でとても重要なことです。一歩外に出ると、石畳の上を馬車と人が行きかい、高い塔を持つ教会の鐘が15分ごとに街に響き渡ります。中世の薫りの残るレンガ造りの建物を抜けると、街の中心には見事な彫刻が施された市庁舎と、右手には、川が流れ緑豊かな、広大な敷地の自然公園。街角にはヴァイオリンを弾いている小さい子どもや、フルートを吹くおじさん……そんな環境の中でクラシック音楽が生まれ、発展したことは、とても自然な流れだと思います。

私の実技担当だったドイツ人のベーツ教授は私によく言いました。「もっと自然なフォームで、円を描くように。まるで、コーヒーを飲んでいるみたいに」。自然、という感覚が私には分かりませんでした。

少なくとも私にとって、楽器を構えて弾くという動作はコーヒーを飲むことよりは複雑で、自然ではないので、どのように力を抜いて立ち、自然に楽器を構え、最小限のエネルギーでもって自然体で弾くかということが、半年間の最大の課題でした。私にはとても難しいのですが、街を歩くだけで様々な文化に触れることが出来る彼らにとって、音楽を奏でること、楽器を弾くことは、コーヒーを飲むのと同じくらいとても自然なことなのです。

今回の留学で出会った人々、そして様々な貴重な経験によって、私は前よりも成長でき、そして自信になったと感じています。この体験を糧とし、今後も積極的に音楽活動を行っていきたいと考えています。

校史点描〈13〉

創立百周年に向けて

赤字穴埋め楽器も購入

演奏会に長蛇の列

外国人出演に永井尽力

大阪音楽学校は30年（昭和5年）に「第1回公開大演奏会」を大阪市の中之島中央公会堂で開きました。大赤字を出し、失敗に終わった北九州演奏旅行の2カ月後のことです。校長永井幸次が余分に負担した旅行経費を、この演奏会で何とか穴埋めしようと、教職員や学生が一丸となってチケットをさばくのに奔走しました。そのかいあって、開場前から中之島には長蛇の列。出演予定の教員や学生まで出て入場整理と警戒に当たり、一人のけが人も出さず、無事演奏が終了。北九州演奏旅行で出した赤字の二、三倍を上回る収益があり、大いに面目をほどこしました。（文中敬称略）

大演奏会は2月23日18時30分から開演。第1部は混声合唱やヴァイオリン・ソナタ、ピアノ三重奏など。第2部はヴァイオリン独奏、バリトン独唱、ピアノ独弾、セロ（チェロ）独奏など。「待ちかまえていた数千の聴衆が、一時に、あの狭い南側の入り口に殺到したので、けが人が出なかったのが不思議なほどの物凄さ。さすが頑丈な公会堂もハチ切れんばかりの超満員だった」と記録されています。お陰で、北九州旅行で出た赤字の穴埋めをして、ブルスナーのセミ・コンサート・ピアノと管楽器数点も購入出来たというおまけもつきました。

赤字と言えば、永井の女婿で教員の長井斉は、後に大阪音楽学校主催の演奏会を開校時から振り返り、次のように記しています。「開校（大正4年）から昭和17年秋までの期間に、大阪音楽学校が主催した音楽会は、私の記録だけでも36回に及んでいる。そのうち、大正年間に開催された8回は大阪音楽学校というよりも、むしろ永井幸次の個人主催であった。その大部分は来朝音楽家の堂々たる演奏会で、いずれも大赤字を覚悟の前の、犠牲的な演奏会ばかりで、永井熱血校長奮闘の勇姿をまざまざと見せ付けられる思いだった」

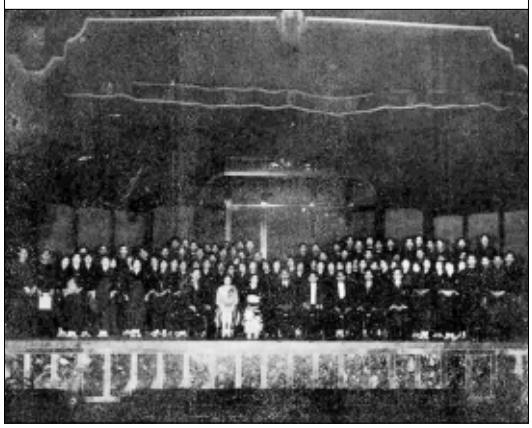
「その中、特に感激的な印象を残しているのはロシアのチェリスト、ボクミル・シコーラが熱演したチャイコフスキーのロココ風変奏曲と、名伴奏者スクラレフスキーを伴った、これもロシアの美しい名ソプラノ、リブコフスカの歌ったリムスキー・コルサコフの雪娘やダルゴミジュスキィの土の香漂うロシア民謡の数々だった」

これら名演奏者、名伴奏者の演奏会はいつ、どこで開催されたのか――。シコーラ・セロ（チェロ）大演奏会は20年（大正9年）5月26日に中央公会堂で開かれています。「聴衆約千五百名、盛んなる喝采に迎えられて始まった演奏はまず、最初の二曲は比較的平凡に終わったが、第二部のチャイコフスキーの変調曲（変奏曲）＝ただし、プログラムでは別の曲が掲載されています＝から真に驚くべき氏の価値が現れた。（中略）ほとんど批評の余地さえない氏の芸術は真に世界的の名に背かず、人々はただ深い感激に浸されるばかりであった」（翌27日付の大阪朝日新聞）

また、ロシアのプリマ・ドンナ、リディア・リブコフスカ夫人の演奏会は22年（大正11年）3月13日と14日にやはり中央公会堂で開かれていました。「熱心な聴衆はステージに現れた夫人の姿に目を奪われた（中略）。ピアニストのスクラレフスキー氏も伴奏の外にシヨパン、バラキレフ、ボロディン等の作品に完全な技巧と鋭利な理解を示した…（中略）なお、十四日夜、夫人は歌劇『雪娘』の女主人公に扮して独唱を試みる筈」（3月14日付の大阪毎日新聞）とあり、演奏会はともに絶賛されています。

これら演奏会のうち、リブコフスカ夫人の演奏会は確かに、大阪音楽学校楽友会主催で、長井の記述通り、「何としても大阪音楽学校をさらに発展させたい」と願う永井の心意気が伝わってきます。

大盛況だった第1回公開大演奏会（1930年、中之島中央公会堂）



6月・7月 学校法人大阪音楽大学の催し

6月3日（木） 18時30分	**一般社会人のためのオペラ講座④** 大阪音楽大学　講師　中村敬一　ほか	7月1日（木） 17時	**第3回ミレニアムピアノコンサート** MH　出演　丸山耕路　清水淳彦　西本由香　小杉裕一
6月8日（火） 17時	**第2回ミレニアムピアノコンサート** MH　出演　北野裕司　星賀規子　油井美加子	7月2日（金） 18時	**サマーオペラ「恋人たちの学校」―コジ・ファン・トゥッテ―** OH　出演　並河寿美　北野智子　晴雅彦　小餅谷哲男　ほか
6月9日（水） 18時30分	**古今東西音楽考「意外と知られていない吹奏楽の世界」** さいかくホール　講師　高　昌帥	7月4日（日） 14時	**サマーオペラ「恋人たちの学校」―コジ・ファン・トゥッテ―** OH　出演　並河寿美　北野智子　晴雅彦　小餅谷哲男　ほか
6月11日（金） 18時30分	**古今東西音楽考「モーツァルトのオペラ」** さいかくホール　講師　晴　雅彦	7月6日（火） 18時30分	**オペラ物知り講座「音響の仕事」** MH　講師　中村敬一　小野隆浩
6月12日（土） 14時	**ミレニアムホール特別講座** MH　講師　日下部吉彦　演奏　加藤かおり　小玉晃　丸山耕路	7月8日（木） 18時	**大阪音楽大学大学院演奏会2010（第18回 Msters' Concert）** OH　出演　三浦槙子　山下真理子　中侑子
6月12日（土） 18時	**Daionコンサート　夕映えの海とともに** ATC大阪南港サンセットホール　出演　福永修子　高垣節	7月10日（土） 10時30分	**ウィークエンドキャンパスツアー** 大阪音楽大学
6月16日（水） 18時30分	**古今東西音楽考「やっぱり、ショパン!」** さいかくホール　講師　油井美加子	7月17日（土） 10時	**指導者研修　合唱応用編** 大阪音楽大学　講師　本山秀毅
6月17日（木） 18時	**一般社会人のためのオペラ講座⑤** OH　講師　中村敬一　ほか	7月18日（日） 10時	**指導者研修　合唱応用編** MH　講師　本山秀毅
6月18日（金） 18時30分	**古今東西音楽考「打楽器の魅力」** さいかくホール　講師　葛西友子	7月19日（月・祝） 10時	**指導者研修　合唱応用編** MH　講師　本山秀毅
6月21日（月） 18時	**第25回ミレニアム・スチューデント・コンサート　第1夜** MH　出演　選抜学生	7月23日（金） 10時	**指導者研修　様々な身体表現** 大阪音楽大学　講師　橋本龍雄
6月22日（火） 18時	**第25回ミレニアム・スチューデント・コンサート　第2夜** MH　出演　選抜学生	7月24日（土） 10時	**指導者研修　様々な身体表現** 大阪音楽大学　講師　橋本龍雄
6月23日（水） 18時	**第25回ミレニアム・スチューデント・コンサート　第3夜** MH　出演　選抜学生	7月26日（月） 10時	**指導者研修　様々な身体表現** 大阪音楽大学　講師　橋本龍雄
6月23日（水） 18時30分	**古今東西音楽考「シューマンの隠れた名曲」** さいかくホール　講師　西村　理	7月27日（火） 10時30分	**指導者研修　合唱基礎編** 大阪音楽大学　講師　里井宏次
6月25日（金） 18時30分	**古今東西音楽考「イタリアからの新しい風」** さいかくホール　講師　本岡浩子	7月28日（水） 10時30分	**指導者研修　合唱基礎編** MH　講師　里井宏次
6月26日（土） 10時30分	**ウィークエンドキャンパスツアー③** 大阪音楽大学	7月31日（土） 10時	**指導者研修　ソルフェージュ** D号館201,202　講師　和泉耕二　長谷川慶岳　ほか
6月26日（土） 14時	**オペラプレトーク「恋人たちの学校」** OH1階ロビー　プレゼンター　大勝秀也　粟國淳　田中勉	7月31日（土） 14時	**卒業生による若い芽のコンサート** MH 出演 荒木舞 下村淑子 吉田衣里 井上美奈 秋本久美 阪田阿沙美 ほか

OH／オペラハウス　MH／ミレニアムホール

ミレニアムホールの催し

2010年度ミレニアムピアノコンサート
～ピアノ教員による演奏会～

第2回　6月8日（火）17時　入場無料

北野裕司

星賀規子

油井美加子

北野　裕司
　A.スクリャービン：24の前奏曲
　作品11より
星賀　規子
　L.v.ベートーヴェン：ピアノソナタ
　第32番　ハ短調　作品111
油井美加子
　C.ドビュッシー：『版画』『喜びの島』

第3回　7月1日（火）17時　入場無料

丸山耕路

清水淳彦

西本由香

小杉裕一

ピアノ2台とソロ

丸山　耕路（ソロ）
清水　淳彦（ソロ）
　J.S.バッハ：トッカータ　ホ短調
　BWV914　ほか
西本　由香　小杉　裕一（2台）

第25回ミレニアム・スチューデント・コンサート

第一夜　6月21日（月）18時　入場無料
ソロ部門　濱田明希　飯沼薫　吉川優梨香
井上舞香　立川正美　小野恵　李梨紗　上田冬美
山家谷憲司

第二夜　6月22日（火）18時　入場無料
ソロ部門　林美希　島令子　岸上ゆりか
田中梨奈　濱野彩香　藤田敬介　農頭奈緒

第三夜　6月23日（水）18時　入場無料
アンサンブル部門　中谷恵　白石麻里子
西岡章博　澤井明日見　宮本茉実　松本静香
安井浩平　谷芳菜　新谷優　奥山由布子
下田彩　濱田夕葵　田原正士　二野宮祐希
熊谷直子　梶山伊織　角武　森美鈴　細川真美
肥後徹士　児玉幸子　江幡遥祐　藤田敬介
越智由香里　土井沙織　石股あかり　田中あゆみ
二野宮祐希　今西貴大　上田将太　谷瑞樹

ザ・カレッジ・オペラハウスの催し

第45回オペラ公演　サマー・オペラ　モーツァルト・シリーズ

W.A.モーツァルト「恋人たちの学校」（原語-イタリア語上演　字幕付）

Così fan tutte コジ・ファン・トゥッテ

7月2日（金）18時　7月4日（日）14時　全指定席
入場料　一般7000円　シルバー6000円　小・中・高校生3000円

＊幸楽会、付属音楽院会員はシルバー料金と同額とします。

大勝秀也

粟國　淳

指揮　大勝秀也
演出　粟國　淳
制作担当　田中　勉
制作統括　荒田祐子

並河寿美

北野智子

小餅谷哲男

晴　雅彦

田邉織恵

木村孝夫

＜キャスト＞

フィオルディリージ	並河寿美	**ドラベッラ**	北野智子
フェッランド	小餅谷哲男	**グリエルモ**	晴　雅彦
デスピーナ	田邉織恵	**ドン・アルフォンソ**	木村孝夫

通奏低音　チェンバロ：西　聡美　チェロ：上塚憲一
合　唱　ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団
管弦楽　ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

オペラ・プレトーク開催

「恋人たちの学校-Così fan tutte-」の見どころ、聴きどころ
6月26日（土）14時　オペラハウス1階ロビー　入場無料
プレゼンター：大勝秀也（指揮）　粟國　淳（演出）
田中　勉（制作）

大阪音楽大学
大学院演奏会2010
第18回 Masters Concert

7月8日（木）18時　全自由席　入場料　1000円

オーディションで選抜された大学院生が、協奏曲およびオーケストラ伴奏でオペラ・アリアを演奏します。

指　揮　小田野　宏之
管弦楽　ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

三浦　槙子　ピアノ
R.シューマン：ピアノ協奏曲　イ短調　作品54

山下　真里子　サクソフォーン
A.グラズノフ：アルトサクソフォン協奏曲

中　侑子　ソプラノ
A.ボーイト：「メフィストーフェレ」より　いつかの夜、暗い海の底に
A.カタラーニ：「ワリー」より　それならば、私は遠くへ行きましょう
G.プッチーニ：「蝶々夫人」より　ある晴れた日に

College Information

2010年度 指導者研修

指導者、また指導者をめざしている方を対象に＜わかりやすく、短期間で身につく研修＞を行います。

■様々な身体表現　鑑賞と創作につながる重要ポイント
企画・担当　橋本龍雄
日程　7月23,24,26日　**受講料**　13000円（本学在学生6500円）

■合唱（基礎編）　素材を磨き、耳を育てる
企画・担当　里井宏次
日程　7月27,28日　**受講料**　6000円（本学在学生3000円）

■合唱（応用編）　合唱と管弦楽とのワークショップ
企画・担当　本山秀毅
日程　7月17,18,19日
受講料　指揮コース20000円（本学在学生10000円）
合唱コース3000円（本学在学生1500円）

＊受講生とオーケストラによる修了演奏会　7月19日（月・祝）15時
ミレニアムホール

■ソルフェージュ　音楽表現する力を育てる
企画・担当　和泉耕二　長谷川慶岳
日程　7月31日　8月1日　**受講料**　10000円（本学在学生5000円）

■ピアノ（基礎編）　初心者のピアノ指導に関する悩みを解決
企画・担当　植田定和
日程　8月1,2日　**受講料**　12000円（本学在学生6000円）

■ピアノ（応用編）　ピアノ指導をより豊かに
企画・担当　浅井康子　中尾園子　八田惇　藤井快哉　松本昌敏
日程　8月2,3日　**受講料**　12000円（本学在学生6000円）

■幼児音楽　子どもに音楽の喜びを
企画・担当　井本英子
日程　8月5,6,7日　**受講料**　9000円（本学在学生4500円）

■打楽器　打楽器の魅力を体験
企画・担当　北野徹
日程　10月2,9,16,23日　11月6,20,27日
受講料10500円（本学在学生5250円）

＜申し込み・問い合わせ＞
エクステンション・センター　☎06-6334-2442　FAX06-6334-2542
E-mail:extension1@daion.ac.jp

第39回 ミレニアムホール特別講座
『シューマン　愛の歌曲集』

6月12日（土）14時　ミレニアムホール

今年はシューマン生誕200年、さらに「シューマン歌の年」から170年。クララと結婚した年に生まれた愛の歌曲を中心にお届けします。

プロデュース・講師　日下部 吉彦
演奏　ソプラノ　加藤かおり
バリトン　小玉　晃
ピアノ　丸山耕路
演奏曲　「リーダークライス」作品24
「ミルテの花」作品25
「女の愛と生涯」作品42
「詩人の恋」作品48
受講料　1000円　＊事前の申し込みが必要です。

オペラ物知り講座　第6期
第2回　音響の仕事
「音響プランナー～小野隆浩さん」

7月6日（火）18時30分　ミレニアムホール

生の音を扱いつつ、建築音響的手法と電気音響を効果的に使って劇場空間に自然な響きを出す音のマジシャン。音響プランナーの知恵とテクニックをとくとご披露します。

講師　中村敬一
ゲスト　小野隆浩（びわ湖ホール音響）
演奏　テノール　清原邦仁
ピアノ　西尾麻貴
受講料　1000円　＊事前の申し込みが必要です。

＜申し込み・問い合わせ＞エクステンション・センター
☎06-6334-2251　FAX06-6334-2542

◇オペラハウス公演のチケットは電話、Fax、はがきでコンサート・センターへお申し込みください。ホームページからもお申し込みいただけます。
http://daion.ac.jp［大阪音楽大学コンサート・センター］〒561-8555　豊中市庄内幸町1-1-8　☎06-6334-2242　FAX06-6334-2164

「恋人たちの学校」の見どころ

今年のサマー・オペラは「恋人たちの学校」。2組のカップルが、互いに相手を変えて女性を誘惑し、愛情の堅固さを競うモーツァルトのオペラです。原題は「Così fan tutte, ossia la scuola degli amanti（女はみなこうしたもの、または恋人たちの学校）」。

演出は粟國淳氏。びわ湖ホールの「トゥーランドット」などを手がけ、ビジュアルでイメージ豊かな演出が話題を呼んだ、気鋭の演出家です。

制作担当の田中勉教授は、「今回イタリアで活躍中の粟國淳さんを、初めてオペラハウスにお迎えします。粟國さんは〝大人の愛〟をコンセプトに演出されるそうですので、これまで『コジ・ファン・トゥッテ』というタイトルで上演してきましたが、今回は原題の後半、『恋人たちの学校』を前面に出し、新鮮でおしゃれなイメージをねらいました。音楽面では今年もチェンバロにチェロを加えた通奏低音本来のスタイルで演奏します。キャスティングは並河寿美さんら中堅の実力派に加えて、今回がオペラハウスデビューとなる北野智子さんや、木村孝夫さんといった新人、若手を思い切って起用しました。世代交代の勢いも感じていただきたいですね」と今回のプロダクションへの意気込みを語りました。

「恋人たちの学校」　音楽稽古　4月10日　オペラハウス

通奏低音でチェロを演奏する上塚憲一准教授は、「チェロの低音が加わることで、チェンバロの足りない部分をサポートし、テンションを高め、オペラの劇的なカラーをより鮮明に出すことができる」と話しています。

ドイツやスウェーデンの歌劇場でキャリアを積んだ指揮者の大勝秀也氏は「このオペラの聴きどころはアンサンブル。6人全員が主役でセクステット、フィナーレと続くアンサンブルとハーモニーをびしっと仕上げることで、おもしろさが伝わる。僕は音楽的なアプローチを通じて〝愛〟とは何か、客席に向かってテーゼを投げかけたい」と話しました。

大人の愛 おしゃれに描く

西宮北口駅に本学の看板

阪急西宮北口駅、2階コンコースのカリヨン広場に、昨年11月から本学の看板が2面設置されています。同駅は通勤、通学の乗り換えの拠点であるばかりでなく、関西のクラシックファンの殿堂、佐渡裕氏が芸術監督をつとめる兵庫県立芸術文化センター へ、アーケード沿いに徒歩4分で通じています。

改札口の前にあるカリヨン広場には、カリヨンを掲げた時計台の周りにベンチが置かれ、朝9時に「線路は続くよどこまでも」、夕方5時に「夕焼け小焼け」の音楽を奏でます。本学の看板はその音楽に合わせ、一面は「線路は続くよどこまでも」、もう一面は「夕焼け小焼け」をほんのりイメージした図柄になっています。

伝統のジャズピアニスト、本学客員教授

91歳 ハンク・ジョーンズ氏死去

世界的ジャズピアニストで本学客員教授のハンク・ジョーンズ氏が5月16日、亡くなりました。91歳。数々の伝説を残した現役最高齢のジャズピアニストでした。

1918年、米ミシシッピー州で生まれたハンク氏は、40年代にニューヨークに進出、ベニー・グッドマンやルイ・アームストロングらと共演し、端正なタッチ、流麗なスイング感は「ミスター・スタンダード」として親しまれました。

本学は92年、短期大学部でジャズ・ポピュラー系の教育を始めたのを機に、ハンク氏を客員教授として招聘。オペラハウス公演や特別講義を通して即興演奏の魅力などを学生たちに伝えてくれました。

「わては、アンクル・ジョーンズだす」。初講義の第一声がこれ。当時、招聘に奔走した赤松二郎教授は「チューニングをしっかりやりなさいが彼の口癖。ジョークを交えた講義は学生にも人気がありました」とハンク氏を回想。

音楽に打ち込む姿　見てほしい

若者で本格オケ結成　箕面で演奏会

本学卒業生中心　6大学の63人

大阪音楽大学の学生や卒業生を中心に活動を続ける「さくらフィルハーモニー管弦楽団」＝末岡修一郎さん（09年大卒・作曲）指揮＝が5月30日19時から箕面市立市民会館「グリーンホール」で定期演奏会を開催。入場料は1000円（全席自由）で、末岡さんは「音楽に情熱を燃やし、打ち込む若い音楽家たちの姿を多くの人たちに見てもらうと同時に、感動を与えることが出来たら」と話しています。

さくらフィルは約3年前、末岡さんら本学学生5人が「オーケストラをつくりたい。それも学内だけにとどまらない、仲間の輪が広がるようなオケを…」と発案。09年4月に在学生と卒業生で結成し、その後に相愛大学、京都市立芸術大学、大阪芸術大学、同志社女子大学、大阪教育大学の学生や卒業生に呼びかけ、団員を募りました。

結成の目的の一つは若手ならではの行動力と発想力を生かしてオーケストラの新しい可能性を探ること。例えば、大阪芸大映像学科の学生たちに活動する姿を映像化してもらったり、デザイン科には演奏会のチラシを制作してもらったりしてタイアップ。二つ目は大学間の交流です。他大学との交流がメンバーたちに刺激を与え演奏意欲の向上へとつながり、また新たな出会いが生まれ音楽家としての人脈が広がる。三つ目はメンバーのステップアップ。練習を重ねることで、高い合奏技術の修得を目指す。また、プロフェッショナルな演奏家の指導も受け入れたい、としています。

これらを目的に日々練習を重ね、09年9月に豊中市ローズ文化ホールで第1回特別演奏会を開催。その時にはメンバーも66人（現在は63人）に増えました。11月には堺市立はるみ小学校で特別演奏会。12月にはザ・カレッジ・オペラハウスでの地域ふれあいコンサートにも賛助出演。J・シュトラウスⅠの「ラデツキー行進曲」やG・プッチーニの「蝶々夫人」より『ある晴れた日に』などを演奏しました。

ただ、楽団のメンバーが教員や社会人、学生とまちまちで練習時間を一定にしづらいこと、民間の練習場を確保したり、借りる費用が負担になったり、といった悩みも抱えています。末岡さんは「課題は山積していますが、それと同じだけの可能性を秘めたオケだと思います」と言い、5月30日にはJ・ハイドンの交響曲第104番「ロンドン」やC・ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」、J・シベリウスの交響曲第2番などを披露します。

多くの人たちに感動を与えることが出来たらと意欲を燃やすさくらフィルのみなさん。

7月に音楽高校合同同窓会

ミニコンサートも計画

大阪音楽大学付属音楽高等学校の同窓会有志の皆さんが7月4日に第3回合同同窓会を計画しています。対象は1968年から1981年の卒業生で、昼食をいただきながら懐かしい友達、先輩、後輩との歓談を楽しんでいただきます。

また、当日はミニコンサートも計画しており、演奏してくださる方を募っています。

同窓会は7月4日12時～16時まで。会場は大阪市城東区鴫野西2-8-30の「スタジオ ヴィーナス」。

問い合わせなど詳しいことは幹事の立川聖子さん（072-841-2069）、柳父恵理さん（072-689-0604）へ。

学生の国際交流や国内外の研修制度に役立たせる「教育振興資金」を募っています

■対　象：一般、卒業生、学生、ご家族、教職員ほか
■募集金額：個人　1口1万円
　　法人　1口5万円

詳細は大阪音楽大学管理事務部門募金担当へお問い合わせください
TEL　06-6334-2131（代表）
FAX　06-6336-0479
E-mail　bokin@daion.ac.jp

ュマンキャンプ

会い体験

員ら計176人が参加。自然豊かな敷地内を駆け巡る野外イベントや教員、在学生たちによる歓迎コンサートなど、催しは盛りたくさん。初日、緊張気味の新入生たちは「2日間で新しい友達ができ、様々な出会いを体験しました」。

世紀の歌曲～21世紀へのメッセージ

月30日　ザ・カレッジ・オペラハウス

林光、H.ホリガー、松村禎三、J.クラム、柴田南雄の作品を演奏しました。

下岡さん　今日のプログラムは挑戦的。4年間一緒に勉強した3人だったから実現できたと思います。

田中さん　信仰と音楽は一生追求するテーマ。「沈黙」が上演された舞台で松村禎三を歌えて光栄です。

加藤さん　ルツェルンで出合ったクラム、ホリガーのすばらしい作品を、日本で演奏できてうれしい。

学生オペラTutti2010

天国と地獄

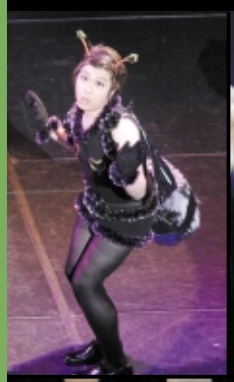
制作　佐々木彩乃（大4・ピアノ）

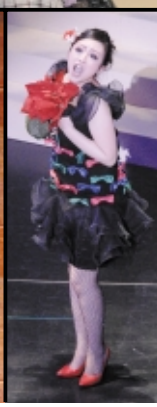
私たち学生による自主公演オペラTutti2010はオペレッタ「天国と地獄」（J.オッフェンバック作曲）が5月2日、ザ・カレッジ・オペラハウスで本番を迎えました。今回のオペレッタはTuttiオペラでは初めての演目で、資料も少なく

初の演目 試行錯誤

試行錯誤の毎日でした。そんな中での、手作りの衣装や・細部にもこだわった小道具・照明の絶妙な変化にも注目していただけたでしょうか。この舞台に熱く情熱を注ぎ、輝く学生の姿は、見る者すべてに感動を与えられたのではないかと思います。

始終笑い声や大きな拍手で迎えてくださったお客様、そして素晴らしい作品を造り上げた学生たち、全ての方に感謝いたします。



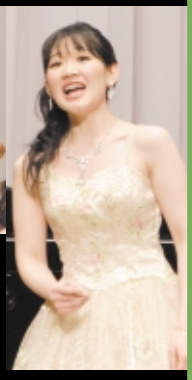


2009年度 大学院演奏会

3月23日　ミレニアムホール

万花鏡（ばんかきょう）のように変幻自在な表現力を持つ楽器、ピアノ。今年の大学院生はピアノを主役にすえた演奏会を企画しました。第一部は「ピアノの歴史と可能性」。J.Ph.ラモーのチェンバロから、J.ケージのプリペアド・ピアノまで、歌やヴァイオリンとのアンサンブルを織り交ぜ、ピアノの歴史をみずみずしい演奏でたどりました。第二部は「オーケストラの響きを求めて」。リムスキー＝コルサコフの交響組曲「シェヘラザード」を松本昌敏准教授編曲によるピアノ2台8手版で初演。千一夜、語り続けて王を魅了したシェヘラザードの物語が、4人のピアニストの多彩な演奏で鮮やかに浮かび上がりました。

千夜一夜～万花鏡の彩り



辻未帆さん　このメンバーだからできるカラーが出せたと思います。

横谷静美さん　40分という長い演奏時間をとても短く感じました。

青木千恵さん　一緒に弾くことで自分の演奏の欠点に気付きました。

栗田真希さん　みんなでスコアを見て音色の色彩感を研究しました。

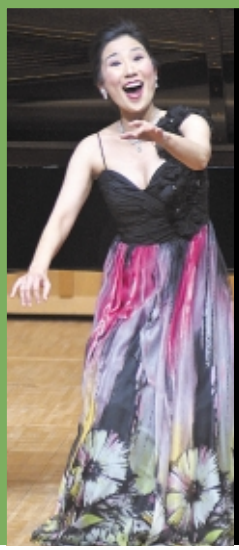
第19回フレッシュ

さまざまな出

176人参加

標高約900メートルの六甲山。その山頂付近にある六甲山YMCA（神戸市灘区）で4月4、5日、新入生のためのフレッシュマンキャンプがありました。

19回目の今年は天候にも恵まれ、新入生127人、在学生や卒業生で構成するグループリーダー、教員、職



第24回推薦コンサート　20

「生と死」を見つめた20世紀の歌曲を取り上げ、21世紀へ託す希望を自分たちの感性で表現したい。そんなコンセプトのもと、10年前共に本学を巣立った若き音楽家3人が意欲的な演奏会を開きました。

叙情的で日本語のディクションが美しいソプラノの下岡万佑子さん、ドラマティックな表現が際立つソプラノの田中郷子さん、前衛的な音楽をリードする硬質なピアノの加藤哲子さん。それぞれが個性を発揮しながら、息の合ったアンサンブルで、

オペラ物知り講座 第6期

お話　中村敬一講師

オペラ物知り講座第6期のテーマは、舞台からは余り見えないところでお仕事をされている音響プランナーやプロデューサーたちに登場していただき、オペラ制作の裏側についてお話を進めます。1回目のゲストは歌手を育て、舞台に送り出す「コレペティートル」の高崎三千さん。中西麻貴さん（ソプラノ）の生演奏とトークを交え、ピアニストが歌い手さんをトレーニングする様子を紹介します。

コレペティートル　高崎 三千さん

高崎三千さんのプロフィル

89年、関西歌劇団の「フィガロの結婚」でコレペティ・デビュー。06年、堺シティオペラ「マダム・バタフライ」のイタリア公演を機に、その後は毎夏、プッチーニ・フェスティバルに招かれイタリアへ。兵庫県立芸術文化センター、びわこホール、ザ・カレッジ・オペラハウスなど関西一円で活躍。

―コレペティという仕事は、オペラを制作する上で、若い歌い手さんには欠かせない大事な仕事です。具体的にはどんなことを。

「言葉の処理、リズム、作曲家の楽譜上の癖など。譜面には書いていないけれど伝統として残っているものがあって、それを伝えるのもコレペティの仕事です」

―日本では20年前までは外国のオペラでも日本語で上演していました。ところが外国から嵐のように情報が入ってきます。どうでしたか、仕事の面で戸惑いは。

「面食らったのはレチタティーヴォ・セッコに出合ったとき。喋るがごとく音符が書かれていますが、それまで日本語訳でオペラを上演してきた我々には、何を基本に作っていけばいいのか、大変苦労したことを思い出します」

―コレペティの人たちは稽古場で誰かが歌を忘れたり休んだりしたとき、歌い手さんの代役を務め、大きな声で歌ってくれたりします。弾き語りでオペラのいろんな役を歌うこともできるんですね。

「そうです。それができないと現場にいても辛くなりますね」

《講座ではこの後、中西さんに登場していただき、稽古場ではどのような方法でトレーニングされているのか見ていただきました。曲はモーツァルトのオペラ「イドメネオ」のアリア「いつになれば、この苦しみは終わるのだろうか」。モーツァルト26歳のときの作品で、揺れ動く女性の心情を音楽で表現しなければならない、大事な場面の一つ。悲しんでいるところ、辛く思っているところなど、たくさんの変わり目があって難しい曲ですが、実はお二人は今の今まで一度も合わせていません》

歌手を育て舞台に送り出す大切な仕事

縁の下の力持ち

歌い終わった後の高崎さんのアドバイス。「一つお願いしたいことは、オーケストラに受け渡しされるとき、次のテンポを少し想像していただいたほうがいいかな。すべての言葉をしっかり言おうと思われすぎて、流れが止まってしまう点も少し気になりました」。

《後半は大学院で声楽の勉強をしているソプラノの中侑子さんと卒業して間もない若いピアニスト内藤典子さんが登場。「トスカ」のアリア「歌に生き、恋に生き」を演奏し、曲の解釈、音楽による言葉の表現などについて指導を受けました》

いかがでしたか。トレーニングの後は音にドラマを感じ、随分変わりましたよね。実は歌い手の皆さんは指揮者や演出家と接する前に、稽古場でこんなトレーニングをしているんですね。ここが一番大事なことで、トレーニングがしっかりしている歌い手さんだと、指揮者や演出家から色々な解釈が出てきても基本ができているからいつでも対応できるんです。本当にこの仕事は縁の下の力持ち。本番ぎりぎりまで歌い手さんの手助けをしてくれる大切な仕事です。

中西さんは最後にA・トマのオペラ「ミニヨン」から「わたしはティターニア」、L・バーンスタインの「キャンディード」から「着飾って華やかに」を披露し、講座を締めくくりました。

オペラ物知り講座inひこね

講師　中村敬一

ソプラノ　並河　寿美さん（95年院修）
テノール　諏訪部匡司さん（06年大専修）
バリトン　時宗　　務さん（03年院修）
メゾ・ソプラノ
**　　林　　育子さん（滋賀県立石山高校講師）**
ピアノ　　矢崎　真里さん（95年院修）

「蝶々夫人」並河さん熱唱、客席に涙

オペラ物知り講座の第3回出張講座が3月14日、滋賀県彦根市のひこね市文化プラザ・エコーホールで行われました。今回はソプラノの並河寿美さんたちをお呼びし、日本人に最もなじみの深いプッチーニの「蝶々夫人」。中村敬一講師のわかりやすい作品解説と生演奏で悲劇の裏側に迫りました。

この出張講座は湖東地域を中心に活動しているアンサンブルグループ「アイネ・クライネ・ローテ・ボーネ」（代表・飯川弓恵さん）の呼びかけで08年にスタートしました。会場は若い人や年配の人たちでほぼ満席。「オペラを観るのは初めて。ワクワクしています」「今回が2回目。すっかりオペラファンになりました」という人も。

舞台は長崎。15歳の蝶々さんとアメリカの海軍士官ピンカートンが結婚式を挙げる朝のシーンからこのオペラは始まります。

ピンカートンと蝶々さんが歌うドラマチックな「愛の二重唱」、ピンカートンの帰りを信じて歌うバタフライのアリア「ある言祝ぎの日に」（ある晴れた日に）、ピンカートンが蝶々さんのことを忘れ、戻らなかったら、とシャープレスに問われると「私はもう一度、芸者に戻ります。子どものために、パンを買うために」と切なく歌う「手紙の二重唱」が続きます。客席には感極まってハンカチで目頭を押さえる人の姿も。

ピンカートンに裏切られ、すべてを悟った蝶々さんが自害する終幕のシーン。彼女が手にする小刀は武士であった父親の形見。そこには「恥辱を受けて生きていくよりも、最後は死をもって自らを終わるべき」という言葉が刻まれていたそうです。

「いかがでしたか、並河さんのチャーミングなソプラノ。そんなに大きな声で歌っているわけではありませんよね。オーケストラの音の中から質のよい声、表現力のある声で皆さんの耳をひきつける、これが歌い手の大事なテクニック。オペラの醍醐味です」

「トムとハックと…」会場感動

本学演奏員、澤一孝さん（本名・浦田敬二、84年大卒・声楽）率いる豊中RSミュージカルの第2回公演「トムとハックと子ども達」が4月18日、兵庫県立芸術文化センターで上演されました。かわいい歌声が会場に響き渡ると、満席の会場からは手拍子が鳴り、舞台と客席が一つになります。厳しい稽古を乗り越え無事、本番を終えた子どもたち。その顔は達成感で輝いていました。

いたずら好きのわんぱくトムは近所の子どもたちを誘って無人島に宝探しに出かけます。ところが大変。トムたちは突然の嵐に見舞われます。逃げ惑う子どもたち。

「みんな大丈夫か」

「大丈夫じゃないよ…」

「女の子を守るんだ。小さな子を守るんだ。みんなで助け合うんだ」

やがて嵐は去り、空には虹が。

♪きょうという日を迎えられ
裕福でないけど生きている
産んでくれた人がいるから
ここにいる
私ひとりの命じゃない
毎日ありがとう
家族にありがとう
「トムとハックと子ども達」はマーク・トウェインの長編小説「トム・ソーヤの冒険」をもとに、澤さんが05年秋にミュージカルとして書き上げた作品です。中身をリニューアルし、音楽も「ありがとう」「毎日が冒険」など3曲が新しく加わり、18曲になりました。

「勇気」と「優しさ」宝物

トムには誰にも負けない「勇気」と「優しさ」があります。お母さんたちが待つ村に無事、帰った子どもたちは、宝物よりすてきなものがあることを知りました。勇気を持って生きること、みんな一人ぼっちでないことを。

出演は園児から62歳までの総勢137人。このうち125人は昨年11月のオーディションに合格し、稽古を重ねてきた子どもたちでした。トム役の原田優希さん（08年短卒・ミュージカル）、ベル役を演じた松尾優さん（大2・声楽）ら4人は本学の卒業生や在学生。「小さな子どもたちの面倒を見、舞台を支えてくれました」とスタッフ。

ミュージカルにかける澤さん

澤一孝さん

04年に劇団四季を退団した澤さんは、その年神戸市西区にミュージカルスタジオ「音楽舎」を開きます。3年後には自らが構成、台本、演出を手がけ、豊中ファミリーミュージカルを旗揚げ。4年目を迎える今年からは池田市も加わり、豊中・池田ファミリーミュージカルとして新たな一歩を踏み出します。

澤さんの周りにはすばらしい仲間がたくさんいます。豊中市内で楽器店を経営する清家孝治さんもその一人。舞台芸術にかける澤さんの生き方に感動し、09年にはレッスン教室「RSミュージカル」を立ち上げました。

また、澤さんを取り巻くスタッフには音楽監督を務める加藤完二・本学講師、ピアニストの今安志保さん（86年短卒・音楽）、ヴァイオリニストの山田眞紀子さん（86年大卒・ヴァイオリン）、音楽を通して地域社会の振興に貢献している北野真祐美さん（82年大卒・作曲）たちがいます。みんなミュージカルで結ばれた心強い仲間です。

今安志保さん

山田眞紀子さん

「ミュージカルは人づくり。子どもたちの笑顔と輝く瞳に出会うために、これからも子どもたちと共に夢を追い続けます」と澤さん。8月には豊中・池田ファミリーミュージカル、来年4月にはRSミュージカルの第3回公演が決定しており、澤さんの忙しい日々は続きます。

西岡信雄名誉教授

ブラームスの「遺髪」寄贈

音楽博物館へ

本学の音楽博物館に、また一つ新たな収集品が加わりました。バッハ、ベートーヴェンとともにドイツ音楽の「三大B」と称されるJ・ブラームス（1833―1897年）の「遺髪」がそれ。世界の民俗楽器や、楽器を持った人形の収集で知られる西岡信雄名誉教授の寄贈で、博物館に展示しています。

39歳の年にウィーンに移り住んだブラームスは、やがてカルルスガッセ4番地に部屋を借ります。シューマンの未亡人クララとの恋は有名ですが、1896年にクララが死亡。心の痛手を癒す間もなく、ブラームスは父親と同じ肝臓癌に冒され、翌97年4月3日、64歳の生涯を終えます。

臨終を看取ったのは終生、身の回りの世話をした、といわれている家主のトゥルクサ夫人とブラームスのお抱え画家・ルートヴィヒ・ミヒャレクでした。

死の数時間後に断髪

遺髪は約20本。栄誉や復活の象徴とされる月桂樹の葉とともに縦15㌢、横11㌢の額に収められています。臨終を看取ったミヒャレク自筆の添え書きによると「ブラームスのこの頭髪は、彼の死の数時間後に私の面前で切られトゥルクサ夫人から私に譲渡されたものである」とあります。まだ写真が普及していなかったこの時代、ヨーロッパでは故人を偲ぶため、遺髪を額やペンダントに入れ身近に置く習慣があったようです。

また、この遺髪には「画家ルートヴィヒ・ミヒャレクの遺品であることを保証する」という古美術商の鑑定書が付いています。

113年の歳月を経て

ブラームスの死から90余年経った1994年冬、西岡さんは浜松市楽器博物館の楽器調査のためオーストリアのザルツブルグにあるピアニスト、イエルク・デムス氏（1928年～）の山荘を訪ねます。デムス氏はピアノなど古い楽器の収集家としても有名な人で、世界の楽器収集に奔走していた西岡さんとは意気投合。そのとき遺髪が入った古びた小さな額が西岡さんの目にとまりました。「あれは誰の遺髪…」「ブラームスさ」

感動「君にあげるよ」

「私が遺髪に関心を示すと、君にあげるよ、といってくれました。コレクションの鑑定などをしていることを彼が知っていて、そんな私を信頼してくれたんでしょうね。感動しました」と西岡さん。手元に置くよりは、多くの人の目に触れる方がデムス氏の厚意に応えることになると判断し、博物館に寄贈したそうです。

113年の歳月を経て音楽博物館にやってきたブラームス。遺髪のそばにはミヒャレクが描いたブラームスの肖像画（絵葉書、縦22・5㌢、横16・5㌢）も展示しています。

松下晴昭さん

「ポジティーフ」寄贈

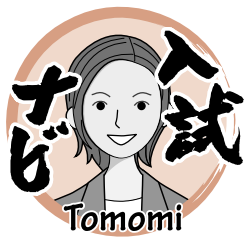
大阪府吹田市在住の元関西学院大学職員、松下晴昭さんから本学に小型オルガン「ポジティーフ」（ヴェルナー・ボッシュ社製）の寄贈がありました。

松下さんは10年前にもルネサンスからバロック初期に使用された「レガール」を寄贈しており、音楽博物館に展示してあります。

ポジティーフは教会にあるオルガンを小さくした小型パイプオルガン。右手で鍵盤を、左手でふいごを操作すると、管が笛の役目をし、メロディーを奏でることができます。14世紀から15世紀にかけての全盛期のころは家庭でよく使われていました。

今回寄贈されたポジティーフは利便性を考え、ふいごの代わりに電動送風機が取り付けられています。37本のフルー管から出る音域は3オクターブ。「小型ながらパイプオルガン本来の音色を楽しむことができます」と土橋薫講師。

大学ではK号館209教室に置き、授業などで活用してもらうことにしています。



こんにちは、受験アドバイザーのともみです。中学・高校生を対象とした「体験レッスン&学校説明」を各地で開催しています。本学教員による実技レッスンと、授業の内容、就職状況、奨学金制度、入試などの説明をおこないます。会場によってはミニコンサートも開催します。詳しくはホームページまたはちらしをご覧ください。

受験講座（夏期）

実施期間　7月30日（金）～8月1日（日）
申込期間　6月30日（水）～7月6日（火）必着
対　象　音楽大学を目指す高校1年生以上の方
開講科目　受験入門講座、ソルフェージュ（旋律聴音・新曲視唱）、楽典、鍵盤楽器（副科）、実技レッスン、音楽基礎知識講習

第60回音楽基礎科目到達度テスト

実施日　8月2日（月）
申込期間　6月30日（水）～7月6日（火）必着

オープンキャンパス（7月29日）

各専攻・コースでイベントを企画しています。個別相談にも応じます。内容はホームページで。

10年度　入学試験結果

3月に実施した大学・短大一般入試B日程と大学院入試後期日程の結果をお知らせします。

大学院音楽研究科 専攻	研究室	志願者数	合格者数
作曲	作　曲	1	0
	音楽学	1	1
声楽	オペラ	6	2
	歌　曲	4	1
器楽	ピアノ	5	1
	管弦打	1	0
合　計		18	5

大阪音楽大学 音楽学部	志願者数	合格者数
作曲学科	**1**	**0**
作曲専攻	1	0
音楽学専攻	0	—
声楽学科	**2**	**2**
器楽学科	**8**	**5**
ピアノ専攻	2	2
オルガン専攻	1	1
管楽器専攻	3	2
弦楽器専攻	1	0
打楽器専攻	1	0
邦楽専攻	0	—
合　計	11	7

大阪音楽大学 短期大学部 音楽科	志願者数	合格者数
作曲コース	0	—
声楽コース	2	2
ピアノ・コース	5	5
管楽器コース	3	3
弦楽器コース	0	—
打楽器コース	0	—
邦楽コース	0	—
ジャズ・コース	募集していません	
ポピュラー・コース	募集していません	
ミュージカル・コース	0	—
電子オルガン・コース	募集していません	
合　計	10	10

はびきの市民大学・聴講記 ⑩

西洋音楽史（講師・白石知雄）

ストラヴィンスキー「春の祭典」

新時代の扉こじ開けた

20世紀に入って「芸術」のあり方が一変しました。そしてこの転換は、ヨーロッパこそが世界の中心、最先端だという自信を揺るがす事態でもありました。それまで、物珍しい風俗で異国趣味の対象としか思われていなかった東方のロシアから前衛舞踊グループが来て、新時代の扉をこじ開けてしまったからです。

19世紀にスペインのフラメンコや日本の浮世絵がもてはやされたフランスでは、20世紀初めにロシアの民族色豊かな美術と音楽が注目されはじめていました。そこに目つけた興行師ディアギレフは、若手ダンサーを集めてパリに乗り込み、「ロシア・バレエ団」を名乗って興行します。そして1913年にイーゴル・ストラヴィンスキー（1882－1971年）の「春の祭典」が初演されます。

筋書きは古代ロシアの異教徒たちの春を迎える儀式。踊りは、「白鳥の湖」のようなクラシック・バレエとは正反対の、人工的でモダンなスタイル。音楽は、不規則な字余り・字足らずのリズム。新奇な踊りと音楽は、観客の目と耳に劇薬のようなパワーで飛び込んできます。

興行師ディアギレフは、格式の高い劇場の着飾った招待客の前で、あえて何の説明もなく、いきなりこの作品を上演しました。初演はさんざんな状態でした。観客は怒り出し、会場はブーイングの嵐。オーケストラの伴奏がダンサーには聞こえないほどだったそうです。

でも、初演が大騒動を巻き起こしたことは、曖昧に拍手で迎えられるよりも、かえってこの作品にはふさわしかったのかもしれません。

「春の祭典」は、観客を共感の渦に巻き込もうとする従来の芸術の在り方そのものに疑問を投げかける作品でした。「感動」の押し売りではなく、驚きと違和感が人々の心とカラダを揺さぶります。未知の感覚を呼び覚ます、いわば「ショック療法」が、20世紀の芸術の新しい表現戦略だったのです。

ア・カペラ版「冬の旅」世界初演

千原講師に委嘱

里井宏次教授　千原英喜講師

F・シューベルトの三大歌曲集の一つ「冬の旅」の無伴奏混声合唱版が作曲家・千原英喜講師の手で完成。6月27日、いずみホールで行われるア・カペラ室内混声合唱団「ザ・タロー・シンガーズ」の第17回大阪定期演奏会で世界初演されます。

「冬の旅」はシューベルトが病気で亡くなる1年前、30歳のときに作曲した連作歌曲集（全24曲）。詩は「美しき水車小屋の娘」と同じドイツの詩人ウイルヘルム・ミューラーによるものです。恋に破れ、さすらいの旅をする若者の心象風景を描いた作品。ドイツ・リートの最高峰とされています。

「ザ・タロー・シンガーズ」を主宰する里井宏次教授はア・カペラによる「冬の旅」の全曲演奏を企画。無伴奏混声「おらしょ」、混声合唱とピアノのための組曲「ある真夜中に」など数多くの合唱作品を出している千原講師にア・カペラ混声合唱向けに編曲を依頼、旋律も伴奏も声だけという新しい創造芸術「冬の旅」が生まれました。

「声、ピアノパートを一音符たりとも省略することなく編作しました。オーソドックスな歌唱法、コンテンポラリー的発声法を用い、従来の『冬の旅』のイメージを膨らませ、また一新してくれることでしょう」と千原講師。

里井教授は「これまで聴いたことのない『冬の旅』ができあがりました。世界初演に一人でも多くの方が立ち会ってくださることを願っています」と話しています。

演奏会は17時開演。チケットの申し込みは大阪アーティスト協会（TEL 06-6135-0503）へ。前売り3500円、当日4000円、学生1500円。

「タロー」6月に大阪で発表

畠山歩美さんの 香港奮闘記

香港日本人学校に赴任して、早くも1カ月が過ぎました。新しい住まいは74階建てのアパート。日系の大型量販店が近いので、日本の生活と全く変わりません。いろんな言語が街中を行き交い、国際都市とはこういうものなんだ、と日々実感しています。そのうえ香港は本当に治安の良い街。こちらの先輩曰く、日本の方がよっぽどスリが多いとか。

学校は高層ビルが建ち並ぶ街の中心部から離れた大きな丘の上にあります。アグネスチャンの出身校が目の前にあったりして。その丘を猛スピードで走るバスやタクシーで出勤するのが私たちの日課です。こちらに来て一番の悩みは、ズバリ乗り物酔い。

満足に音出るピアノを

職員室の雰囲気はとても明るく、「香港に来てよかった」と心から思っています。音楽環境も充実し、何といってもグランドピアノが弾け、こんなうれしいことはありません。でもこのピアノ、30年以上も使っている古いピアノで、なんと入学式の前に「ド」の音が出なくなってしまうハプニングが。急遽、調律したものの、今度は「シ」の音が出なくなってしまって…。

「中古でいいから、満足に音が出るピアノが欲しい」。新任先生の切なる願いです。

コンクール（敬称略）

■第3回関西ピアノオーディション2009 Virtuose部門 準グランプリ 竹内美紀（00年大卒・ピアノ）＝1月10日、大阪・アゼリア大正ホール。日本ピアノ研究会主催

■第4回電子オルガンの為の作品公募 予選譜面審査で選ばれ、本選公開演奏審査に入選 杉本友樹（大3・作曲）＝3月13日、東京・渋谷エレクトーンシティ。全日本電子楽器教育研究会など主催

■第12回万里の長城杯国際音楽コンクール ピアノ部門大学の部 1位 櫻井奈月（大2・ピアノ）▽**ピアノ部門一般の部A 1位** 田所千佳（08年大卒・ピアノ）＝3月27日、尼崎市・ピッコロシアター。中国音楽理事会主催

田所千佳　櫻井奈月　杉本友樹　竹内美紀

ショパン生誕200年記念
Approach to Chopin
vol.2　演奏法

即興性とカンタービレ

客員教授　池田洋子

ショパンは作曲家であると同時にたぐいまれなピアニストで、その演奏は大変繊細で陰影豊かであったと伝えられています。今回は池田洋子本学客員教授が、フランス留学時代に師事したA・コルトー、ショパンの教えを直接受けたL・ディエメらに師事し、ピアニズムを継承しながら大輪の花を咲かせたA・コルトーの教えをまじえ、ショパンの演奏法にアプローチします。

池田洋子　神戸女学院大学名誉教授。マリア・カナルス国際コン2位。演奏生活50周年を記念して今年10月3日、いずみホールでオールショパンプログラムの演奏会を開く。

いつ頃からショパンの作品を弾き始めたのか記憶にありませんが、私の音楽歴を振り返ってみると、折あるごとにショパンを弾いていました。私にとってショパンの音楽は、一番自然に感じられるだけでなく、思い入れも一段と深いものがあります。一般にショパンは難しい、コンクールでもショパンを選ぶと損をするとまで言われています。ピアノ作品を演奏する上で、ショパンほど〝ショパンらしい音〟を、ピアニストに求める作曲家はいないのではないでしょうか。弾く側からいうと難しいショパンですが、聴く側からみると、ショパンほど心に残る美しく親しみやすい旋律の音楽は他に例がないでしょう。

ポーランド人といわれているショパンですが、お父さんがフランス人であることから、彼のなかには多分にフランス的で洗練されたしゃれ気があります。フランス的センスとポーランドの民族的リズム感がうまくマッチして、ワルツやマズルカが生まれています。ピアノという楽器をこれほど歌わせる音楽として作曲したのも、他に例をみないと思います。祖国ポーランドに心をよせながら、フランスで一生を終えたショパンのメロディーには、祖国を思う力強さが秘められていて、単なる哀愁に満ちた甘い旋律でないところが、人の心を打つのではないでしょうか。

透明感あるやわらかな音色を

このようなショパンの作品の演奏には透明感のある、やわらかな美しい音色が要求されます。モーツァルトを崇拝していたショパンの音楽には、音楽の流れに自由さがあふれていますから、演奏する側にも即興的感覚が欲しいものです。

1957年夏　スイス・ローザンヌ　A．コルトー宅で　左端がコルトー、右から二人目がジャンティ、中央が池田客員教授

一九五六年から六〇年まで、私はフランスに留学し、パリ・エコール・ノルマル音楽院の演奏家コースで、創立者であるアルフレッド・コルトー先生とジュル・ジャンティ先生に師事しました。五〇年前の日本とフランスの演奏法は根本的に違っていました。指だけで弾いていた日本と違って、手首、肘、腕の力を抜いて、あらゆるところを使ってピアノを弾くよう徹底的に直されました。そして指のいろいろな面を使って、打鍵を試みて音色の変化を出すこと。これは〝ショパンらしい音〟を追求する上でも大事です。もちろん留学中の四年間に完全に学べるものではありませんが、私はこの二つの基本的で最も大切な教えを研究しながら今日に至っています。特にショパンに造詣の深いコルトー先生に直接師事することができたことは、大変恵まれたことと感謝しています。当時のコルトー先生は八〇歳。とても穏やかで、大きな眼をまん丸くして、にっこりしながら握手してくださいました。その手のやわらかいこと。でも握手されるときの力強いこと（私の手が痛くなる位強く）、鋭い視線の中に温かい心が感じられた一瞬は今も忘れられません。

レッスンは年5～6回。パリの音楽院だったり、スイス、ローザンヌのご自宅だったり。コルトー先生の演奏は常に即興的で、だれにも真似のできないテンポ感をお持ちで、個性的なピアニストでしたが、ご自分の解釈や表現方法を押し付けることなく、それより楽譜に書かれた音楽や和声的響きから音楽を読み取り、ごく自然に表現するよう指導されました。特にショパンは、どんなパッセージもカンタービレ（歌うように）に弾くよう強調されました。ですから私は常にどんなパッセージも決して音を並べるだけでなく、聴衆に語りかける演奏をしたいと願っています。

幸楽会新会長に松尾昌美名誉教授

大阪音楽大学同窓会《幸楽会》の10年度総会が4月25日、ミレニアムホールで開かれました。今年は3年間会長をつとめた矢野蓉子名誉教授が退任され、新会長に松尾昌美名誉教授が選ばれました。

松尾新会長は就任のスピーチで「会員相互の交流を深め、在学生の方にも幸楽会の存在を理解していただき、大阪音楽大学を社会に対してアピールする活動をしていきたい。厳しい時代を迎えていますが、〝母校あっての同窓会〟ですから、創立100周年に向けて、いろいろな形で母校を支援していきたい」と抱負を述べました。

今年は総会に先立ち、初めて卒業生限定のオープンキャンパスが開かれ、キャンパスツアーや公開レッスンが行われました。会員のみなさんはオペラハウスを見学し、声楽やピアノ、ポピュラーコースのレッスンに耳を傾けました。在学生アンサンブルコンテストには27組の応募者から選ばれた3組が出場し、片岡里沙子さんら8人のグループによる金管八重奏がみごと1位に選ばれました。

「母校あっての同窓会」

在学生アンサンブルコンテストで1位を受賞した金管八重奏アンサンブル

大阪音楽大学後援演奏会

This is Quintet
6月5日(土)17時　池田市民文化会館
延原弘明　赤松由夏　池上尚里　角田知子
後藤敏子　成川昭代
☎072-725-5377　後藤

退屈かな?室内楽コンサート
6月6日(日)14時30分　南港サンセットホール
一般1500円　学生1000円　当日300円増
白土文雄　今榮くみこ　久保美緒
☎06-6615-5005　ATC企画推進チーム

第26回大音コンサート
6月13日(日)13時30分　秋篠音楽堂
船谷浩子　ヴォーカルアンサンブルNARA
熊本祐美子　馬場喜子　アウガルテン
☎0742-22-2660　石原

井上麻子×藤井快哉DUOリサイタル2010
6月25日(金)19時　ザ・フェニックスホール
武満徹:閉じた眼Ⅱ　ほか
☎06-6251-8266　ヤマハアトリエ大阪

ザ・タロー・シンガーズ第17回定期演奏会
6月27日(日)17時　いずみホール
里井宏次　ザ・タロー・シンガーズ
シューベルト／千原英喜編曲:「冬の旅」
☎06-6135-0503　大阪アーティスト協会

キャトル・フィーユ　ミレニアムコンサート
7月12日(月)18時30分　ミレニアムホール
西川綾子　丹下緒　有吉真希　大畑奈津子
☎090-3278-5077　キャトル・フィーユ

ショパン生誕200年～ピアノdeクラシック～
7月28日(水)19時　姫路キャスパホール
高原珠美　村上ひろみ　竹内恵美　吉田裕文
☎079-236-0702　吉田

フレンドシップガラコンサート2010　茨木公演
8月8日(日)14時　茨木市市民総合センター
原真奈美　齋藤杏子　遠藤留美子　米田依未
水沼文恵　下岡万佑子　橋田波子　本郷舞
金川知子　森孝裕　籔川直子
☎0797-57-0643　フレンドシップ事務局

《幸楽会》後援演奏会

ピアノジョイントコンサート
6月6日(日)14時　神戸芸術センター
浅野裕子　岡部圭子　小澤華子
☎078-621-0358　小澤

リコーダー・オーケストラ　デル・ソーレ大阪 第3回コンサート
6月13日(日)14時　甲東ホール
井上佳代　織田優子　山本佳美　ほか
☎090-2104-5956　織田

第8回アマデウスコンサート
6月20日(日)14時　みつなかホール
小山隆子　角田信江　松田真里子　塩野明美
山下典子　大井千世　井澤利
☎072-759-0478　松田

西洋古楽器による小演奏会vol.67
6月25日(金)19時　草片
森本英希　赤坂放笛　吉竹百合子
☎0745-55-2478　そう楽舎

くまの集会Part6
6月27日(日)14時　ノア・アコルデ
菊池栄子　廣谷幸子　春本佳代
☎090-5648-6348　春本

2台ピアノによる22世紀のクラシック
7月9日(金)19時　兵庫県立芸術文化センター
神戸女学院小ホール
山本京子　武田有賀　細木一子　前田陽子
☎090-3657-8143　office KA.HO.RU

モディス・ピアノトリオ室内楽コンサート
7月23日(金)19時　ザ・フェニックスホール
山内美奈　仁科人美　日野俊介
☎06-6858-0084　ミュージックアートステーション

彩りジョイントコンサート
8月8日(日)13時30分　ローズ文化ホール
板井利果　大江さゆり　久成由美子
荒木直美　荒井洋子　中村美智子　ほか
☎080-1448-8973

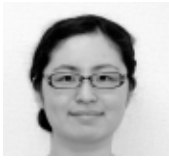
2010 College Announcer

10年度の学内放送アナウンサーはこの４人のみなさんです。授業期間中の月曜日から木曜日の昼休み時間、学生生活に役立つ情報をお知らせします。ぜひチェックしてください。

Monday
松田祐季さん(大3　声楽)

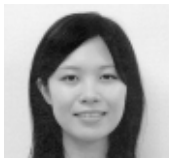
1年生のころからアナウンサーをやってみたいと思っていました。6月4日にミレニアムホールで自主公演「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル役で出演するので、今稽古の真っ最中です。

Tuesday
村上優子さん(大4　ピアノ)



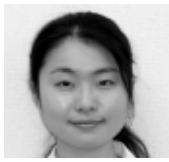
ヴァイオリンの杉山さんらと一緒にフルートとピアノとヴァイオリンのトリオ"Frisches Laub"を組んで、室内楽を演奏しています。去年雅楽の授業で笙を吹いたのがおもしろかったです。

Wednesday
伊豆田佑香さん(大4　声楽)



今年のTutti-オペラ「天国と地獄」にヴェーヌス役で出演しました。一年前から取りかかり半年間稽古をして、本番でまさに燃え尽きました。客席から笑い声が聞こえたときはうれしかったです。

Thursday
杉山恵梨さん(大4　ヴァイオリン)



アナウンサーのお仕事は緊張しますが楽しいです。大阪で音楽家が集う「音楽の祭日」というイベントに参加して、6月19日に大阪のヒルトンホテルでバッハの無伴奏パルティータを演奏します。

幸楽会のホームページ　http://www.kougakukai.net/
E-mailアドレス　kougaku@daion.ac.jp

オペ管 大忙し

ホーミーや民謡の合奏披露
第28回ミュージアム・セミナー

第28回ミュージアム・セミナー「モンゴルの風にのせて」は3月20日に音楽博物館で催され、モンゴル民族アンサンブル「モンゴル・アヤングー」の4人が出演。

まず、西岡信雄名誉教授が「歌、声、そして5種類の楽器を紹介しモンゴルの草原を思い起こすような音楽を聴いていただきます」とあいさつ。

メンバーはリンベ（横笛）、ホーミーのM・サウガゲレルさん、馬頭琴のO・バトトゥグスさん、ビシュクール、ホーミーのJ・バトバヤルさん、オルティンドー、ボキンドーのB・バトツェツェグレンさんで、モンゴル民謡の合奏や、ホーミー独唱などをたっぷり披露しました。

楽器を奏でる人形たち

ティンパニの祖

オスマン帝国時代の軍楽隊が使った大太鼓キョス。ラクダに乗せて叩くために一対で使っていた習慣が現在のティンパニに踏襲されています。

西岡信雄コレクションより（音楽博物館所蔵）

「オーケストラの日」

3月31日は“耳に一番（みみにいちばん）”、オーケストラの日です。ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団も昼は豊中市役所、夜はNHK大阪ホールと大忙し。美しい音楽で、市民の“耳”を楽しませました。

豊中市役所

豊中市役所第二庁舎で開かれた「市民ロビーゆうゆうコンサート」にはザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団団員22人と同合唱団員9人が出演。両者お得意のオペラの楽曲などを披露すると、音楽に吸い寄せられるように続々と人々が集まり、子ども連れの若いお母さんは「近所に住んでいますが、子どもにオーケストラを聴かせる機会が少ないので来てよかった」と喜んでいました。

NHKホール

NHK大阪ホールで行われたリレー・コンサートでは京阪神地区合同オーケストラに団員15人が参加。一階アトリウムには各楽団のブースが設けられ、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団のブースではオペラのDVDに人だかりが。楽器体験コーナーでは、団員の山根朋子さんが子どもたちにヴァイオリンの手ほどきを。市民とふれあい、オーケストラを身近に感じてもらう一日となりました。

次号発行予定7月26日